

第1 保育期が終わった後、夏休みに入ってから、角笛幼稚園の園庭におけるビオトープ作りの作業は続けられました。

園庭に隣接する牧師館の庭の池の再生工事は、防水工事に続いて、何回かにわたる水の入替えが行われ、やがて池の底に砂利が敷かれました。また、中心になって作業を担ってくださっている庭師の古山隆志さんが、都内のいくつかのビオトープから水草（イグサ、ヒメスイレン、コウホネ等）をもらってきてくださり、池の中に植えてくださいました。

そして、いよいよ池の中に放つ魚をいただく日が来ました。杉並区内のビオトープに赴き、クロメダカを約100匹（！）、モツゴ（クチボソ）を10匹ほど、またヨシノボリ（ハゼの一種）とギンヤンマのヤゴも1匹ずつ譲っていただきました。牧師館の庭の池に放つと、すぐに元気に泳ぐ姿が見られて、うれしくなりました。その日の作業には、角笛幼稚園の卒園生である大学生もお手伝いくださいました。

さらに、後日、池の水を補っていくのに、やはり雨水が良いとのことで、牧師館の庭に雨水タンクも設置され、雨水が溜まった時には、池に水を流し入れることができるようになりました。



毎日のように池の中や、周辺を観察していると、いろいろな変化が見られます。ある日、池にかかる小さな橋の下に、ヤゴの抜け殻がくっついていました。夏の間、池から巣立っていったトンボがいたのでしょう。

また、池の中を注意深く覗いてみると、大きなクロメダカと共に、小さな塵ほどの赤ちゃんメダカがたくさん泳いでいるのに気づきました。牧師館の庭の池の中で生まれた赤ちゃんたちなのかもしれません。

池の再生工事は完了しました。当初、園児のみなさんが池の中を自由にすることができるように、園庭と牧師館の庭の間にある白い金網フェンスを取り払うことも考えましたが、古山さんに相談したところ、生き物たちにとってはこのままが良い、とのアドバイスをいただきました。池の中の魚たちや池の周りに生きる小さな生き物たちにとっては、人が常時立ち入るような形でない方がよいのだということです。また、お子さんたちが誤って池に落ちたりしないようにするためにも、普段は池の周りに入れぬ形にしておくのが安全です。園児のみなさんには、時に応じて、必ず保育者が伴う形で牧師館の庭に入り、池の中を見てもらうようにしたいと思っています。

ただ、夏休み中も、また夏休みが明けてからも度々思わされるのは、牧師館の庭だけでなく、園庭においてもトンボや蝶、バッタやカマキリ等の昆虫たちを目にする機会が明らかに増えたように思えることです。やはり小さな生き物たちにとっても、近くに水辺があることが、彼らが生きる上で必要不可欠なことなのだと思います。

園児のみなさんが、角笛幼稚園の園庭で、少しでも豊かな自然、小さな生き物たちを目にし、触れる体験をしてもらえればと願っています。なお、園庭の南側に雨水タンクを設置する工事が11月に行われる予定です。

